

# けっこう複雑な読書リキ学？

## 読書中、無意識に行っていること

- ①本の重さを支える
- ②ページを開いておく
- ③位置を合わせる
  - 目と行の距離を保つ。角度を保つ。
  - 視線の移動に合わせて、位置や角度を微調整する
  - 目がピントを合わせる
- ④ページをめくる……………などなど、

非常にデリケートな作業をほとんど無意識で造作なく行っています。

開いたページは平面も曲面もあり、上から下へと読み進む行は

次々と移行していて、手も目も脳も連携して絶妙にアジャストしています。

でも意識はそんなことには無関心。そこに気をとられているようでは読書にはなりません。

本はテキストを乗せたメディアに過ぎませんから、本扱いに煩わされることなく、

いま読んでいる意味内容に集中していきたいのです。



## eBook時代の出遅れツール、ブックハンド。

この中でもっとも厄介なのは、ページを開いておくことでしょう。その点eBookやスマホはとても楽です。

文庫本や新書版などはページが閉じないように、ずっと手で押さえ続けなければなりません。

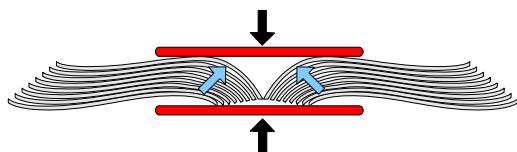
片手や仰向けでは困難なこともしばしばです。ブックハンドは、ノド部を押し開いたまま、閉じようとする力を

完全に打ち消します。また、読書の進行による左右のページ数の増減もフレキシブルに受け止めます。

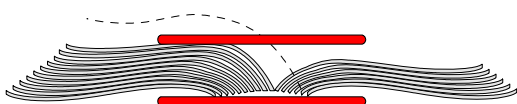
手指よりも楽にページキープでき、どんな姿勢でも集中力を保ちやすい、新タイプの読書ツールです。

—— やっぱり紙の本がいい、という時代遅れの方々へ。

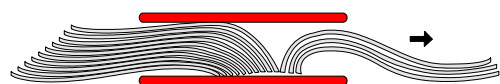
ノド部を押し開き、閉じようとする力を完全に打ち消します。



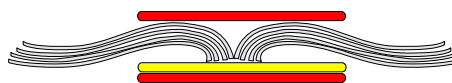
500ページ以上の厚くて挟めない文庫本も、少し読み進むうちに、厚さが左右に分かれるため、使えるようになります。



読み始めや終わり付近では、中心を少しずらしてバランス調整してください。



薄い本では、スタンドプレートを内側に嵌合すれば、ホールド感が向上します。



強くつかめば、本をしっかりとグリップできます。逆さにしても落下させません。

